

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000634		
法人名	有限会社 和(のどか)		
事業所名	グループホーム あつとホームのんき		
所在地	山形県 東田川郡 三川町 大字猪子 字大堰端 336		
自己評価作成日	平成21年 8月 10日	開設年月日	平成 16年 12月 21日

グループホーム あつとホーム のんき (のんき 2)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎ 家庭的な雰囲気の中で、利用者のペースにあわせた、介護の提供を、心がけています。 ◎ 夕方から夜間にかけての、入浴提供を行っています。 ◎ 「利用者さん本意！」が、運営のテーマでもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ のんき1 に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19-6-2F		
訪問調査日	平成 21年 9月 9日	評価結果決定日	平成 21年 10月 12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○ 理念を書き入れたものを、施設内の見やすい場所に掲示しています。 ○ また、ミーティングや会議等を通じて、随時確認をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○ 買い物・理髪・学校行事・お祭り等を含め、地域との関わりを持ちながら、毎日の生活を送っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○ 地域での、認知症に関連した、講演活動を行っています。(統括管理者) ○ 実習生や、ボランティアを、積極的に受け入れしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○ 事業所の都合ではありますが、定期的に運営推進会議を、開催しておりません。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○ 役場等の担当職員とは、随時に情報交換の場をもうけ、当施設に対しての、理解とサービスの質の向上に努めています。 ○ 庄内総合支庁職員とは、定期的な訪問の時に、情報交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	○ 施錠や身体拘束は行っていません。 会議において、これらの内容について、話し合いも行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○ 会議の場やでの勉強会や、研修会への参加を通じて、理解を深めるとともに、防止に役立っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○ 手続き代行や、金銭管理等の、援助を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○ 契約前(施設見学時)より、家族に方の抱えている不安や疑問にお答えするとともに、当ホームの方針や理念を、家族の方へ説明しています。契約時にあらためて説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ 家族からの意見・要望・不満・苦情に関しては、素直に受け止め、随時、改善に向けた対応を行いようとしています。その後、モニタリングした内容についても、報告をするようになっています。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○ 給料日毎に、個別面談を行い、職員の意見や要望を聞いています。○ また、月に1度職員の全体会議を開き、意見や要望を聞く場を設けています。○ 緊急を要する内容であれば、随時、ミーティングや、意見調整の場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○ 資格所得や、勉強会・研修会の奨励を行っています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○ 勉強会開催・研修会参加への奨励を行っています。○ 働きながら、資格が取れるように、勤務の調整等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	○ 交換実習生の受け入れ等を通じての交流を行い、サービスの質の向上に努めています。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○ 家族や支援センターより、事前に情報を頂き、援助内容の把握に努めるようにしています。○ 利用の初日より、専属のスタッフを配置し、コミュニケーションを図りながらの荷物整理や利用時の説明を行っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○ 利用の相談をいただいた時点より、出来る限りの、困り事や相談事をたずね、家族の思いに共感する事に努めています。○ 施設を見学に来られた際には、再度家族の訴える内容を確認し、施設の方針等の説明をしています。○納得したうえで、等ホームの利用をお願いしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○相談内容において、他の利用方法が妥当である場合には、状況に見合った医療機関、福祉事業所および、支援センター等の紹介をさせていただきます。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○ 心身ともに落ち着いた生活が出来るように、一緒に過ごす時間を、多く持つようにしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○ 気軽に面会に来られるよう、環境作りに心がけています。(制限のない面会時間・ゆっくりとお話できる、環境の提供・etc..) ○ 面会時家族より、生活歴や趣味活動・嗜好の聞き取り等を行い、ケアの向上に役立てるようにしています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○家族からの協力もいただきながら、冠婚葬祭、地域の行事への参加や、面会への促し、馴染みの人間関係の継続への援助を行っています。(お墓参り・学校祭・馴染みの理髪店での理髪・面会・外出・外泊・etc..)			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○気の合った、利用者同士で過ごす場や、時間の提供に努めています。(居室・リビング・食堂・外出・・) さりげなく、フォローするようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○利用が終了した場合においても、家族からの相談は、随時伺うようにしています。○随時、必要な対応を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用者が、何を望んでいるのか、常に疑問を持ちながら、日々声掛け等行い、援助に当たっています。○訴える事の出来ない利用者については、家族や親戚の方より情報を収集したうえで、援助に役立てるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○大まかではありますが、利用前より、生活歴や嗜好の調査をしています。○入所後も、これらの把握に努め、日々のケアに、役立てるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○利用者個人のペースに合わせた援助を、心がけています。○スタッフの都合に合わせた、サービス提供は行っていません。(食事の時間・入浴・娯楽・排泄・・・)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○ケアプランについては、家族、もしくは本人よりの聞き取りを行ったうえで、作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○出来事や変化を、日誌や、個人記録に記録しています。これらの情報を、職員間で共有し、サービスの提供に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>○ 利用者が必要とする地域資源に関しては、必要に応じ、積極的に関わられるように、援助を行っています。(買い物・理髪・町内の行事・ボランティアの受け入れ・etc..)</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>○内科医院・歯科医院ともに、気軽に往診していただいています。 ○ 気軽に往診していただけるよう、良好な関係づくりに努めています。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>○看護職員は、協力医院との連絡調整を行い、利用者の健康維持に努めています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>○随時、対応を行っています。 ○入退院に関しては、家族・医療機関・施設間で、十分話し合いを行い、理解していただいたうえで、状況に合わせた対応をしています。また、お見舞い等も積極的に行い、身体状況の把握にも努めています。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>○契約時において、希望する内容の聞き取りをするとともに、ホームでの対応等を伝えるようにしています。 ○様態変化が見られた時点において、主治医・家族・施設間での話し合いを設け、予想される今後についての検討を行い、その後の対応につなげています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○急変時、あわてず対応できるように、状況に応じたマニュアルを作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○地元の消防署の協力を得て、訓練等を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○個人の自尊心に十分配慮した、声掛けや対応を行っています。○記録管理や、守秘義務に関しては、会議等での研修材料に取り上げて、徹底するようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○本人の自己決定を大事にしています。色んな場面において、活用しています。(食事・入浴・外出・レクリエーション・買い物・etc……)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一日において、おおよその生活の流れは、出来てはいますが…… ○利用者や家族の、希望やペースに合わせた、生活援助を行っています。(食事時間・離床時間・入浴時間・外出・etc…) ○個人のペースに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○本人が今まで行ってきた、身だしなみへの援助を行っています。(着衣・理髪・化粧……)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○調理・準備・片付け等は、利用者と職員と一緒にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事摂取量や水分摂取にムラが見られる方は、摂取確認表を作成し、健康管理に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○歯磨き確認表を作成して、個別の状況に見合った、対応を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	○トイレを理解できない方や、身体的な理由でトイレを使用できない方でも、誘導や介助を行うことで、トイレでの排泄の継続と、排泄物品の節約にも努めています。 ○排泄確認表を作成し、パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○排泄確認表を作成し、排泄周期の把握に努めています。 ○主治医より医療面でのアドバイスを受け、看護師が対応をしています。 ○運動や水分補給等、本人に見合った個別の対応も、行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	○夕方からの、入浴を実施しています。入浴の時間は、おおよそ、16時00分～20時30分まで行っています。 ○プライバシーを尊重し、一人ずつの入浴を実施しています。 ○状況に応じて、臨時の入浴も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○入眠のパターンを把握するとともに、安心して休めるように、随時対応しています。(昼寝の促し誘導・室温の管理・冷却品の使用・寝具の確認・et c..)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○利用者の服薬に関しては、効能や注意事項を理解したうえで、与薬に努めています。 ○処方に変更があった場合には、速やかに職員間でその情報を、共有できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○生活全般において、利用者個人の存在が認識できるよう、「活躍や役立ちの場」の提供に努めています。(食事作り・準備・片付け・縫い物・掃除・洗濯・畑仕事・草取り・etc・・・)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○本人の体調や、その日の天候も考慮して、外出等への援助を行っています。(畑仕事・買い物・ドライブ・墓参り・etc・・・)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○本人の能力に合わせた、金銭管理を行っています。○金額にもよりますが、必要に応じて、本人に管理しいただく場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○希望に応じて、随時対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○ゆったりと落ち着いて過ごせるよう、共有のスペースは、広めに設定してあります。また、リビングからの眺めは和風になっており、中庭にある季節の草花が、見られるようになっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○自室以外にも、一人または複数名で、ゆったりと過ごせる共有スペースを、確保してあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○スペースの許す限り、物品の持ち込みは、家族・本人に任せています。思い出深い物や、大切な物に関しては、積極的に持ってきていただくように、助言させていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○居室・トイレ・洗面所・テーブル等、名札や張り紙をして、認識できるようにしています。		